

学 科	服飾美術専攻科	担 当 教 員	古濱 裕樹		
授 業 科 目	品質管理	科目区分	関連科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	品質管理は製品を製造するあらゆる業界で重要視され、実施されていることである。この授業では、家庭用繊維製品の製造と品質に主眼を置き、品質管理の基礎から応用までを講義する。ここで得た知識は、より良い製品の企画、製造・流通における管理、消費者対応など様々な領域で活用できる。繊維製品品質管理士 (TES) の資格取得水準を超える知識を修得し、業界で活躍できる能力を獲得することを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 品質管理の基礎 (1) ～品質管理の概要と実施～ 2. 品質管理の基礎 (2) ～品質管理の手法～ 3. 繊維製品の企画・設計による品質 4. 繊維製品の製造による品質 5. 繊維製品の品質要求項目と消費性能 (1) ～一般繊維製品の品質と性能～ 6. 繊維製品の品質要求項目と消費性能 (2) ～機能性、審美性製品の品質と性能～ 7. 繊維製品の品質に関わる人体の生理機能 8. 繊維製品の試験法と評価 (1) ～繊維, 糸, 布地～ 9. 繊維製品の試験法と評価 (2) ～製品, 染色, 加工剤～ 10. 品質苦情を解決するための基本 11. 品質苦情を解決するための知識 12. 品質苦情を処理する手順 13. 品質苦情の事例 (1) ～損傷, 外観・形態変化～ 14. 品質苦情の事例 (2) ～風合い, 光沢, 色の変化～ 15. 品質苦情の事例 (3) ～加工の機能性低下, 安全・衛生, 表示の不適合～ 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	Google クラスルームにて資料を公開する。				
準備学習の 具体的内容	毎回の授業後に、資料を閲覧して課題に取り組む。課題は次回授業時に採点結果の返却および講評を行う。				
評価の方法 基 準	授業の課題 -毎回実施、全 15 回- (100%)				
履 修 上 の 注 意	Google クラスルームと Meet によるリアルタイム型の遠隔授業となる。毎回、授業開始時刻までにクラスルームトップページから Google Meet に入室すること。Google クラスルームのクラスコード : uv56bnw				

学 科	服飾美術専攻科	担 当 教 員	片山 康之		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	倉敷市の離島松島で運営されている松島分校美術館を本科目の教材とし、現地でのフィールドワークから企画立案までを行う。様々な観点からデザイン・芸術文化の社会的意義について実践を通じて認識することが本科目の目標となる。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 2. 松島分校美術館視察 3. 「地域とアート」 4. 「岡山と地域アート」 5. 「松島で実施すべきアート企画」①過去の事例 6. 「松島で実施すべきアート企画」②現在の状況 7. 「施設の新たな活用法を考える」①過去の事例 8. 「施設の新たな活用法を考える」②現在の状況 9. 「企画書の作成」①企画書作成方法 10. 「企画書の作成」②チーム編成 11. 「企画書の作成」③話し合い 12. 「企画書の作成」④企画提案 13. 「松島陶芸体験」①瀬戸内海で採取できる土について 14. 「松島陶芸体験」②実制作 15. 「松島陶芸体験」③仕上げ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 「コミュニティデザイン」一人がつながるしくみをつくる」学芸出版 「まなざしのデザイン」NTT 出版				
準備学習の 具体的内容	松島分校美術館の Web サイトを事前準備として閲覧すること。				
評価の方法 基 準	課題 (100%)				
履 修 上 の 注 意	本科目は集中講義を予定しており、離島にある松島分校美術館で3日間ほど開講する。瀬戸内の離島松島までは美術館が管理するボートで移動する。悪天候の場合は休講し、別日に補講として実施する。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>イラストレーションおよびデザインの制作に重点を置く。作品課題のテーマは年々変わります。</p> <p>5 項目を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 明確で説得力のあるコンセプトを策定する。 2) アナログ、デジタル両技術を調和させる。 3) 効果的なプレゼンテーション手法を用いる。 4) 創意に富んだ内容とスタイルのイラストレーション作品とする。 5) 課題のテーマを十分理解したイラストレーション作品とする。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. イラストレーション課題作品1の「Background Research：概説・調査」 3. イラストレーション課題作品1の「Creation：制作」 4. イラストレーション課題作品1の「Retouching：修正」 5. イラストレーション課題作品1の「Completion、Presentation：完成、発表」 6. イラストレーション課題作品2の「Background Research：概説・調査」 7. イラストレーション課題作品2の「Creation：制作」 8. イラストレーション課題作品2の「Retouching：修正」 9. イラストレーション課題作品2の「Completion、Presentation：完成、発表」 10. イラストレーション課題作品3の「Background Research：概説・調査」 11. イラストレーション課題作品3の「Creation：制作」 12. イラストレーション課題作品3の「Retouching：修正」 13. イラストレーション課題作品3の「Completion、Presentation：完成、発表」 14. 課題作品まとめ 15. 最終的プレゼンテーション、全体講評・評価 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>「せかいのひとびと」ピーター・スピーアー, 1980 「ABCの本」安野光雅, 1974 「Timeline」Peter Goes, 2015 加えて、担当教員が授業課題に関連参考資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>前回の授業内容を復習して、課題作品の要件に従っていることを確認すること。 授業前に Google Classroom の指示、資料、説明等を参考にすること。 提出期限どおりに準備すること。</p>				
評価の方法 基 準	<p>作品制作 (80%) 作品プレゼンテーション・発表 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>アナログ作品を制作するため、色鉛筆セット、アクリル絵の具セット、ブラシセットを持参してください。 デジタルデータの保存するため、USB メモリ 16GB (以上) を持参してください。 作品発表と自己表現も授業の重要な要素の一つである。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	ドローイング I	科目区分	関連科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	本科での基礎デッサン，人体デッサンを通じて，モノクロームの世界を探求してきた。 専攻科のドローイングでは，油彩あるいはアクリル絵の具によるグリザイユ・カマイユ技法を習得すべく， ドローイング I および II を一体的に考えて授業を展開してゆく。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. グリザイユ (幾何形体) -形をとる- 3. グリザイユ (幾何形体) -トーンをつける- 4. グリザイユ (幾何形体) -仕上げ- 5. グリザイユ (四角いもの・丸いもの) -形をとる- 6. グリザイユ (四角いもの・丸いもの) -トーンをつける- 7. グリザイユ (四角いもの・丸いもの) -仕上げ- 8. グリザイユ (白いもの・黒いもの) -形をとる- 9. グリザイユ (白いもの・黒いもの) -トーンをつける- 10. グリザイユ (白いもの・黒いもの) -仕上げ- 11. グリザイユ (自由課題) --エスキース- 12. グリザイユ (自由課題) -形をとる- 13. グリザイユ (自由課題) -トーンをつける- 14. グリザイユ (自由課題) -仕上げ- 15. 講評 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	視覚デザイン研究所編「質感を表す (みみずくアートシリーズ)」				
準備学習の 具体的内容	各自，作品の進捗状況に合わせ，当日の課題個所を授業前までにイメージしておく。				
評価の方法 基 準	全課題提出を前提条件として， 作品 (90%) 取り組み (10%) の総合評価とする。				
履 修 上 の 注 意	汚れてもよい服装であること				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之 (実務経験あり)		
授 業 科 目	立体制作論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>ディスプレイデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。 そのために先ず、ディスプレイの成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じてディスプレイデザインの基礎知識を身に着ける。 具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。 授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行うこと。 その際、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、を目標とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ディスプレイデザインについて 2. ディスプレイデザインの研究事例解題 (解説) 3. ディスプレイデザインの研究事例解題 (討議) 4. ディスプレイデザイン実例の検討 (解説) 5. ディスプレイデザイン実例の検討 (見学) 6. ディスプレイデザイン実例の検討 (討議) 7. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 8. ディスプレイのグラフィックについて 9. ディスプレイのグラフィック制作 10. ロゴマークについて 11. ディスプレイデザインのライティングと光のオブジェについて 12. 制作するまとめ作品に関する発表・討議 13. 作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験 				
実務経験を 活かす内容	<p>インテリアデザイン事務所での実務経験を生かし、基礎知識と発想力を鍛える。 発想意図を伝達するに必要な表現力 (スケッチ・制作・撮影) に係る実践的教育を行う。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『ディスプレイデザイン』 (SD 選書)</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>月に2回程度の提出物 (20%)、制作姿勢 (20%) 試験 (10%)、期末提出作品 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	造形表現論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>過去の卒業研究や各種論文を中心に紹介しながら、学術論文作成に係る資料収集方法、整理と資料のまとめ方について考えてゆき、ある程度独力で、論文構成ができることを目指す。</p> <p>中盤以降は輪番でデザイン学系論文読解と紹介を行ってもらい、実践的に論文構成を身に着けることを目標とする。</p> <p>中盤以降は輪番で各回のテーマに沿った発表と議論を行い、実践的な思考力を身に着けることを目標とする。おおよそ5回目～14回目は、輪番で論文を購読しその内容を紹介する。あるいは、特定のテーマに基づいた調査を行い、その結果を発表してもらおう。なお、5回目から9回目は担当者が題材を指定し、10回目から14回目はできる限り、受講者のテーマに沿った題材とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の概要説明、論文構成の図解・図示方法解説 2. 事例（学術論文その1；基礎デザインに関する論考）紹介 3. 事例（学術論文その2；デザイン思想に関する論考）紹介 4. 事例（学術論文その3；祭礼に関する論考）紹介 5. 受講者による事例（学術論文その4；映像に関する論考）紹介と討議 6. 受講者による事例（学術論文その5；デザイン史に関する論考）紹介と討議 7. 受講者による事例（学術論文その6；道具論に関する論考）紹介と討議 8. 受講者による事例（学術論文その7；物づくりと地域開発に関する論考）紹介と討議 9. 受講者による事例（学術論文その8；道具学に関する論考）紹介と討議 10. 受講者による事例（学術論文その9；絵画に関する論考等）紹介と討議 11. 受講者による事例（学術論文その10；服飾に関する論考等）紹介と討議 12. 受講者による事例（学術論文その11；絵本に関する論考等）紹介と討議 13. 受講者による事例（学術論文その12；都市に関する論考等）紹介と討議 14. 受講者による事例（学術論文その13；祭礼に関する論考等）紹介と討議 15. 試験と授業のまとめ 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリント配布</p> <p>参考図書；『図解作成の基本』（すばる舎）</p> <p>参考図書；『見やすい資料のデザイン入門』（インプレス）</p>				
準備学習の 具体的内容	発表担当に際しては、事前に担当教員と打ち合わせの上、発表準備をする必要がある。				
評価の方法 基 準	発表（40%） 数回の提出レポート（40%）、試験（20%）				
履 修 上 の 注 意	履修者の学修状況によっては内容を変更する場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之 (実務経験あり)		
授 業 科 目	造形表現		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開講時期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>先行授業における光の演出に関する演習をふまえ、与えられた制限時間内でショウウィンドウのデザインと模型制作演習を行う。なお、必要スキルについては、適宜トレーニングカリキュラムを組み入れ、習得させる。</p> <p>必要スキルとは、ショウウィンドウのデザイン実例情報収集に習熟すること。 収集された情報を元に討議ができること。 討議から生まれた発想をアイデアスケッチで表現すること。 数々のアイデアを集約した模型を計画・制作すること。 制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行うこと。 その際、各課題を通じて獲得した造形的感覚および、服飾販売に係るアイデアを共有するための内容が含まれていること、を目標とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の概要説明・ショウウィンドウに関する討議 2. ショウウィンドウについて (講義) 3. ショウウィンドウの実例資料収集 4. 採集画像について発表・討議 5. ショウウィンドウ模型(1)制作にむけたアイデアスケッチと討議 6. ショウウィンドウ模型(1)制作 7. 制作したショウウィンドウ模型の撮影, 作品のまとめ 8. 提案したショウウィンドウについて発表・討議 9. ショウウィンドウ模型(2)制作にむけたアイデアスケッチと討議 10. ショウウィンドウ模型(2)制作 11. 制作したショウウィンドウ模型の撮影, 作品のまとめ 12. 提案したショウウィンドウについて発表・討議 13. 作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験 				
実務経験を 活かす内容	<p>インテリア系デザイン事務所での実務経験を生かし、発想力を鍛える。 空間発想の意図を伝達するに必要な表現力 (スケッチ・作図) に係る実践的教育を行う。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布する。 参考図書;『空間デザイナー』(六耀社)</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>月に2回程度の提出作品 (20%), 制作姿勢 (20%) 試験 (10%), 期末提出作品 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	大原 啓市・唐澤 克樹		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期
授業の主題 目 標	Adobe Creative Cloud を利用した印刷デザイン・動画編集について学習する。 学生が、学士論文作成において、必要となる基本的な論文作成術とテーマ設定時での試行錯誤を情報処理論やコンピュータ、インターネット利用の視点から必要不可欠となるポイントについて講義する。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのログイン, G Suite の活用 (担当: 大原) 2. Adobe Indesign を利用したフライヤー作成 (担当: 大原) 3. Adobe Indesign を利用した小冊子作成 (担当: 大原) 4. Adobe Illustrator を利用した名刺作成とフライヤー作成 (担当: 大原) 5. Adobe Premiere Pro を利用した動画作成 (担当: 大原) 6. Adobe DC を利用した e ポートフォリオ作成について (担当: 大原) 7. Google Apps を利用した WEB アンケートフォーム作成 (担当: 大原) 8. Google Apps を利用した WEB アンケート集計分析 (担当: 大原) 9. 論文の構成: 「問い」と「答え」 (担当: 唐澤) 10. 文献の探し方、図書館の活用 (担当: 唐澤) 11. 社会調査 (1): 量的調査法 (担当: 唐澤) 12. 社会調査 (2): 質的調査法 (担当: 唐澤) 13. 論文の表現 (1): 専門用語、正確な表記・文体 (担当: 唐澤) 14. 論文の表現 (2): 明晰な文章の展開、書き手の責任 (担当: 唐澤) 15. 論文作成とまとめ (担当: 唐澤) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	論文・レポートの基本: 石黒 圭 (著); 日本実業出版社				
準備学習の 具体的内容	指定した教科書を熟読して授業にのぞむこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	海本 友子		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1, 2 年次・前期
授業の主題 目 標	話しことば、書きことばの両面から国語の効果的な表現方法を学び、演習を通して実践力を養うことを目標とする。話しことばの面では、基礎的、基本的なことからについて理解を深めながら、実践的トレーニングを行いコミュニケーション能力を高めることをめざす。書きことばの面では、望ましい文章の条件を明らかにするとともに、文章を書く心理過程を分析しながら効果的な文章の作成法を学び、実作を通して文章表現力の向上をめざす。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序講, 聞き取り調査と友人紹介・スピーチの工夫 2. 話す技術・聞く技術 3. 話す力への自己診断チェックシートの活用 4. 話す力の改善点 5. 敬語の種類 6. 敬語の使い方 7. 文章構成と文章表現 8. 読み手聞き手を惹きつける文章の組み立て方 9. 用語と表記, 表現上の諸問題 10. レポートの書き方 11. 小論文, 論文の書き方 12. 就職活動の準備 (エントリーシート・自己推薦の書き方など) 13. 手紙の書き方 14. 新聞記事の構成 15. 社説コラムの文章 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 頭がいい人の文章の書き方 (小泉十三他, 河出書房新社) 参考図書 文章表現入門 (演習編) (速水博司, 蒼丘書林) 話す力が面白いほどつく本 (櫻井弘, 三笠書房)				
準備学習の 具体的内容	課題とする文章作成の下書き, 構成案				
評価の方法 基 準	授業への取り組み (50%) レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活文化環境論		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	<p>祖先から培われて来た伝統や文化の中には、社会生活を豊かに生きる知恵や自然に対する畏敬の念があります。一方で、現在の私たちの生活環境を見渡すとき、経済効率や利便性が優先されがちかもしれません。それらはすべてが相反するものではありませんが、生活文化や生活環境を考えることは単なる知識の集積ではなく、人やモノの関係性をしっかり観ることであり、生き方をデザインすることです。</p> <p>本講義においては各担当教員が、私たちを取り巻く日常を多様な観点から、そしてその関係性を紐解きながら問題提起し、受講者の新たな価値基準発見のお手伝いをする授業です。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会政策①：大学生の就職活動とその実態(担当：唐澤) 2. 社会政策②：社会政策の意義と歴史、社会政策の考え方 (担当：唐澤) 3. 社会政策③：労働者の生活、賃金、労働組合、労働運動 (担当：唐澤) 4. 日本の絵画史料およびその他資料から“モノによる事物の区別・意味づけ”を読み取る (担当：松内) 5. 室内空間から都市空間に及ぶ事物の区別・道具立て(担当：松内) 6. 祭礼空間に見る事物の区別・道具立て(担当：松内) 7. WordPress による WEB サイト構築(担当：大原) 8. Society 5.0・AI・深層学習・機械学習・量子暗号(担当：大原) 9. 消費者行動において重要な「記憶」を学ぶ(担当：岩崎) 10. 消費者の態度形成に及ぼす要因とその影響を理解する(担当：岩崎) 11. 衣服衛生の立場から、人間と衣服環境の望ましい関係を考える。(担当：佐藤) 12. 衣服の機能と快適性・着心地 -肌着、ベビー・キッズアパレル(担当：佐藤) 13. 衣服の機能と快適性・着心地 -UV 対策アパレル, 学校制服(担当：佐藤) 14. 科学的、工学的視点から生活文化、生活環境を考える(担当：道明) 15. ものづくりにおける品質や技術、ブランドについて(担当：道明) 16. ものづくりと環境問題について(担当：道明) 17. カルト映画を通じて、時代や社会を考察する(担当：田中) 18. 1950～60 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 19. 1970 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 20. 海外の芸術・文化活動の例(担当：趙) 21. 日本の芸術・文化活動の例(担当：趙) 22. 現代における問題意識について(担当：趙) 23. 日本の文化や環境を視点として、精神を患わずことと社会について考察する (担当：上村) 24. 坂口安吾の日本文化私観について考察する。(担当：上村) 25. 現在の日本の文化や環境について具体的な事例から考察する。レポート提出 (担当：上村) 26. 衣服の入手方法と服飾への価値観の変化について(担当：乾) 27. 衣生活の振り返りにより、服飾の今日的意義を考える(担当：乾) 28. ファッション産業とトレンド (担当：武永) 29. ファッションの歴史から見るトレンドとトレンドサイクル (担当：武永) 30. トレンドの分析と取り入れ方 (担当：武永) <p>各教員の担当順は都合により変更することがある。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>各担当教員が資料を配布する。</p> <p>参考図書:松生勝編著『アパレル科学概論』朝倉書店, 坂口安吾『日本文化私観—坂口安吾エッセイ選』(講談社文芸文庫)講談社, 原山麻美子『令和03年 IT パスポートの新 よくわかる教科書』技術評論社</p>				
準備学習の 具体的内容	各担当教員が配付する資料や参考図書などの該当箇所を参照し、学習内容に応じて適宜、予習・復習を行うこと。				
評価の方法 基 準	提出課題(80%) 受講態度(20%)				
履 修 上 の 注 意	学位授与機構に申請する際の「家政学に関する総合的な科目」に相当する。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	生活福祉論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の意義について理解できる。 2. 社会福祉の法制度について説明できる。 3. 社会福祉の現状と課題について理解できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の動向と社会福祉 2. 欧米の社会福祉の歴史 3. 日本の社会福祉の歴史 4. 社会福祉法制 5. 社会福祉の実施体制 6. 社会福祉施設と専門職 7. 社会保障制度 (1) 社会保険 8. 社会保障制度 (2) 公的扶助 9. 子ども家庭福祉の法制度 10. 子育て支援にかかる今日的動向 11. 高齢者福祉の法制度 12. 障がい者福祉の法制度 13. 社会福祉とソーシャルワーク 13. 福祉サービスの利用支援と権利擁護 14. 地域福祉の推進 15. 社会福祉の動向と課題 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	志濃原亜美編集『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉』みらい 2020年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度 (10%) コメントシート (60%) レポート (30%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実技 I	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	自由にデザインをしたオリジナルジーンズを制作する。 制作を通じ、ジーンズの構造や縫製方法およびデニムの加工方法を習得するとともに、倉敷や児島の文化について学びを深める。特殊ミシンを使用した縫製工程は倉敷市児島産業振興センターの繊維産業ワークスペースを活用し、より実践的なジーンズ縫製の能力を身につける。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジーンズの構造・副資材について 2. デザイン画の作成 3. パンツ基礎線の作図 4. オリジナルジーンズへの型紙展開 5. デニムの裁断・印つけ 6. 前パンツの作成 7. 前たての作成 8. 後ろパンツの作成 9. 股縫いと脇縫い 10. ウエストベルトとベルトループ 11. 特殊ミシンによる縫製 12. デニム加工 13. 装飾・仕上げ 14. レポート作成 15. 作品撮影・発表 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜配布。 参考資料：『文化ファッション体系 服飾造形講座(9)メンズウェア I (体型・シャツ・パンツ)』文化出版局				
準備学習の 具体的内容	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (60%) レポート (20%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	特殊ミシンによる縫製の回は現地への集合で、学外にて行います。体調管理に気をつけてご参加下さい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅱ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>服飾は時代と共に変遷し、構成もそれにつれて変化している。良い服がわかり、良い服を制作するためには高度な技術と知識が必要となってくる。</p> <p>過去の衣服史や民族衣装の知識を身につけつつより高度な理論・技術・表現力を養う。体型に合わせた衣服製作を通して、より快適なパターンづくり、ドレーピング・パターンからのデザイン創作、応用的縫製方法、特殊素材と縫製機器の取り扱いなどを知る。</p> <p>実習課題としてはジャケットもしくはコートを製作する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ジャケットの歴史と形状について <ジャケット・コートの制作> 2. 計測・パターン作成 (身頃) 3. パターン作成 (袖・衿) 4. 裁断および印付け 5. 仮縫い 6. 試着・パターン修正 7. 裏地裁断・接着芯張 8. 本縫い(1) 身頃・ポケット 9. 本縫い(2) 衿作り 10. 本縫い(3) 衿付け 11. 本縫い(4) 袖作り 12. 本縫い(5) 袖付け 13. 本縫い(6) ボタンホール等 14. 仕上げ 15. 着装・課題提出 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>適宜プリントを配布する。</p> <p>『文化ファッション大系 改定版・服飾造形講座4 ジャケット・ベスト』文化服装学院編 文化出版局 参考図書『(文化出版局MOOKシリーズ) 誌上・パターン塾 Vol.5 ジャケット&コート編』文化出版</p>				
準備学習の 具体的内容	必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	<p>提出課題 (60%)</p> <p>レポート (20%)</p> <p>受講態度 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>課題提出日を厳守すること。</p> <p>授業時間外の作業が発生することがある。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅲ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>フォーマルウェアの製作を通じ、コンセプトに基づいた独創的なデザインのパターン展開と、製作方法を理解する。フォーマルウェアに適切な形、素材についても知識を深め、デザインに取り入れる方法を習得する。また、製作した作品とコンセプトのプレゼンテーションを行うことにより、説得力のあるデザインを発信できる能力も身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォーマルウェアの定義と素材について 2. コンセプトの設定 3. デザイン画の作成 4. パターン製作(1)身頃・スカート 5. パターン製作(2)袖・衿 6. サンプル製作とパターン修正 7. 裁断 8. 接着芯・印つけ 9. 身頃の縫製 10. スカートの縫製 11. ファスナー付け 12. 袖・衿の縫製 13. 裏地の縫製 14. 装飾・仕上げ 15. プレゼンテーションと作品撮影 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(6) 服飾造形応用編Ⅰ』文化出版局 参考書：『誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編』 その他、適宜配布。</p>				
準備学習の 具体的内容	必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	<p>課題作品 (50%) プレゼンテーション (30%) 授業態度 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実技Ⅰ (1年次・後期)・Ⅱ (2年次・前期) を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	高橋 敏子		
授 業 科 目	手工芸演習	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1, 2年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	さまざまな手工芸の技術を実際に学習し、国際的な手工芸文化についての見識を高める。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 編物の歴史と種類 2. タティングレースの基礎編み ダブルステッチ 3. タティングレースの基礎編み リング編みとブリッジ編み 4. タティングレースの基礎編み 作品の図案 5. タティングレースの応用編み 作品を繋げていく 6. タティングレースの応用編み 作品の仕上げ 提出 7. クロシェレースの基礎編み ①かぎ針の使い方 8. クロシェレースの基礎編み ②細編み, 長編み 9. クロシェレースの基礎編み ③三角形, 四角形, 円の編み方 10. クロシェレースの応用編み ①作品の編み図の見方 11. クロシェレースの応用編み ②作品の仕上げ, 提出 12. クラシックレース (ヘアピンレース, ブリュージュレースなどの基礎知識) 13. クラシックレース (バテンレース, ボビンレースなどの基礎知識) 14. クラシックレース (クンストレースの基礎知識) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省後援日本編物検定協会 手引き書 レース2級 適宜プリント配布。				
準備学習の 具体的内容	授業で学んだ技法を復習し、マスターしておく。				
評価の方法 基 準	課題の提出物の評価(50%) 意欲・応用力・研究的態度(50%)				
履 修 上 の 注 意	短期大学において手工芸を履修した方が望ましい。 配布したプリントは毎回授業に持参すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	被服心理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>人の被服行動を心理学の立場から分析する。被服行動をとおして、人間というもの、自分というものを見つめなおす。</p> <p>到達目標 被服の社会・心理的機能を理解する。 被服における流行について説明ができる。 これからの被服行動について、考えを示すことができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方の説明・被服の着衣行動 2. 人間の着衣動機 3. 被服による装飾・整容・変身行動 4. 被服の購買・消費行動 5. 被服と流行行動 6. 被服に対する知覚と感情 7. 化粧行動 8. 身体と着衣行動 9. 被服による性の学習と性役割の演出 10. 人間の発達と着衣行動 11. 被服コミュニケーション 12. 被服と逸脱行動 13. グループディスカッション 14. 各自テーマを設定し、プレゼンテーション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『まとう(新装版): 被服行動の心理学(人間行動学講座)』, 中島義明・神山進, 朝倉書店 その他, 適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	普段から, 被服に関する新しい情報に興味を傾け, 問題点等をまとめておいてください。				
評価の方法 基 準	各回の課題 (20%) 授業への意欲・参加度(20%) 発表と発表内容のレポート (60%)				
履 修 上 の 注 意	受講者の人数や受講生の関心によって, 順番を入れ替えたり, 内容の一部を変更したりする場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服衛生学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	快適な被服をデザインするためには、ヒトと物との関わりを、総合的に把握することが重要である。この授業では、ヒトの生体メカニズムを学習した上で、ヒトと物との関わりを評価する方法を学ぶことを目的とする。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服と環境, 被服の目的および機能 2. 生体の構造 3. 被服設計における人間因子(1) 形態的因子 4. 被服設計における人間因子(2) 体型分類 5. 被服設計における人間因子(3) 運動機構的因子 6. 被服設計における人間因子(4) 着心地の評価 7. 人体計測法 8. 生理学的測定法 9. 動作分析法 10. 心理学的測定法 11. 自律神経系, 生体リズム 12. 体温, 皮膚温, 平均皮膚温 13. 発汗, 唾液 14. 心拍, 血圧, 血流 15. まとめ・筆記試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：日本家政学会被服衛生部会編「アパレルと健康」井上書院 参考図書：斉藤秀子・呑山委佐子編著「快適服の時代」おうふう 田村照子編著「衣の科学シリーズ 衣環境の科学」建帛社				
準備学習の 具体的内容	テキストの読了				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%), 筆記試験 (80%) により評価する。				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学実験」受講希望者は、この授業を必ず履修すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>快適な被服の評価をするために、被服等を着用した時の温冷感、圧迫感、肌触りなどの心理量、生理量に関する測定や評価を行い、実験計画、評価手法、解析手法について学習し、生体反応について理解を深める。基本的な測定法や電気生理学を用いた測定法を用い、快適な被服の評価、快適環境の評価についての実験を集中的に行う。実験テーマについて議論し、実験計画、評価方法、解析方法を考え、学生間相互に被験者となり実験を行う。受講者全員が1つのテーマで実験を行い、各人にレポートの提出を求める。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服に関する問題点について考え、レポート提出。 2. 提出されたレポートを基に議論し、実験テーマを決定する。 3. 実験内容、評価方法、測定項目の検討。 4. 実験内容、評価方法、測定項目の検討および準備。 5. 実験1（同テーマで被験者を数人確保し、5回程度の実験を実施） 6. 実験1の解析と反省。実験手順・改善点の確認。 7. 実験2（実験1のテーマで実験1とは異なる被験者にてのデータ収集） 8. 実験3（実験1のテーマで実験1・2とは異なる被験者にてのデータ収集） 9. 実験4（実験1のテーマで実験1～3とは異なる被験者にてのデータ収集） 10. 実験5（実験1のテーマで実験1～4とは異なる被験者にてのデータ収集） 11. データの解析 12. データの解析、反省、実験レポートの作成 13. 実験レポートの作成 14. レポート発表・ディスカッション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>佐藤希代子著「被服生理学実験プリント」を授業時に配布する。 参考図書：日本家政学会被服衛生部会編「アパレルと健康」井上書院 鈴木浩明著「快適さを測る」日本出版サービス</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>婦人体温計を各自準備し、8月頃より基礎体温をつけること。 （女性被験者は黄体期に実験。この黄体期を把握するための基礎体温測定である。）</p>				
評価の方法 基 準	<p>受講態度 (20%) レポート提出 (50%) 発表 (30%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>「被服生理学」「被服衛生学」を受講のこと。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	アパレル材料科学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1, 2年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	アパレル材料 (繊維, 糸, 布およびその他高分子材料) の科学についての基礎的な理解を深めるため, 繊維・アパレル業界で一般的な繊維試験や, やや高度な方法についても学び, 実験を通してそれらの知識を身につける。またアパレルの生産現場における品質に対する考え方を学ぶ。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 備中地区繊維産地 (主に児島) における品質評価に対する実態調査 3. 実験 1 ナイロン 66 の界面縮合重合 4. 実験 2 高分子のレオロジー測定—繊維のクリープ測定 5. 実験 3 繊維の引張測定①—糸の伸張特性 6. 実験 4 繊維の引張測定②—糸の節強さ, 引掛け強さ 7. 実験 5 布の引張測定—布の伸張特性と異方性 8. 実験 6 布の引裂き測定—ペンジュラム法とシングルタング法 9. 実験 7 布の織密度測定①—画像処理 (2次元フーリエ変換) による測定 10. 実験 8 布の織密度測定②—光学回折による測定 11. 実験 9 布のプリーツ性評価—モンサント法 12. 実験 10 快適機能性素材の評価—JIS 法とボーケン法 13. 実験計画検討会—実験テーマと実験手法の検討 14. 実験 11 アパレル材料に関する測定, 評価 15. データ整理, レポート作成 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 実験書 (開始時に配布する。)				
準備学習の 具体的内容	事前に実験書, 参考書等をよく読んで内容を把握しておく。				
評価の方法 基 準	レポート (80%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	実験用白衣の着用				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	唐澤 克樹		
授 業 科 目	地域活性化論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1,2年次・前期(隔年)
授業の主題 標	<p>【主題と概要】自分たちが住む地域をより良くするために、地域活性化が求められている。本講義では、地域活性化を担う「人」に焦点をあて、倉敷市内で取り組まれている地域活性化について考察することが目的である。また、フィールドワークを行うことで、地域活性化の手法と併せて地域調査(社会調査)の手法を身に付け、提言を含めたレポートを作成することも目的である。</p> <p>【到達目標】本講義の目標は、①地域活性化の事例を踏まえて活性化の意義や手法を理解すること、②質的調査方法を理解し身に付けること、③文献調査やフィールドワークから得られた内容を基に政策提言を行うことである。</p>				
授業の内容 進め方	<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 講義概要、倉敷市はどのような街か 2. 倉敷市の歴史と特色(1)―自然と歴史― 鷺羽山、由加山、亀島山、瀬戸内海、産業と自然の関係 3. 倉敷市の歴史と特色(2)―産業― 繊維産業、コンビナート開発、旧倉敷・児島・玉島の三市合併 4. 倉敷市の歴史と特色(3)―生活と住環境― 生活、労働、所得水準、買い物、公園、住まい 5. 質的調査法(1)―質的調査とは― 研究論文を書くためには必要なこと、質的調査とは、量的調査との違い 6. 質的調査法(2)―調査の準備― ヒアリング調査の種類と手順、参与観察、エスノグラフィ 7. 質的調査法(3)―調査対象を選ぶ― サンプル、アポイントメント、信頼関係、誰に何を聞いて何を明らかにするのか 8. 質的調査法(4)―調査結果をまとめる― 信頼性と妥当性、テープ起こし、グランデッドセオリー、KJ法 9. 地域調査(1)―調査の準備― グループ編成、調査準備、調査目的と仮説の設定 10. 地域調査(2)―文献調査― 図書館を活用した文献調査、地域経済分析システムの活用 11. 地域調査(3)―ヒアリング調査― 対象となるサンプリングを行う、調査依頼を行う 12. 地域調査(4)―調査する― 調査を実施する 13. 地域調査(5)―調査まとめ― 結果から何が得られたか考える 14. 地域調査(6)―提言の考え― 調査結果を基にレポート作成(グループ)、提言を考える 15. 講義まとめ―調査報告会― プレゼンテーションを行う <p>定期試験は実施しない</p> <p>【授業の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料、板書によって授業を展開する。写真、映像、スライドを活用することがある。 ・グループワークが中心の科目であり、授業内容などを踏まえたディスカッションを行う。 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【教科書】 実地調査入門	西山敏樹 他	慶応義塾大学出版会	1,760 円	
	【参考書】 フィールドワークの技法	佐藤郁哉	新曜社	3,190 円	
	【参考書】 サステイナブルな地域と経済の構想	相田利雄 他 編	御茶の水書房	6,380 円	
	※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は講義内で適宜紹介する。				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・質的調査は事前準備が必要である。 ・教科書や参考文献をよく読むこと。 				
評価の方法 基 準	①期末レポート・報告(60%) ②授業内課題(40%)				
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク(バーチャル・ツアー)を行うことがある(土日の可能性もある。交通費が必要となる。) ・グループワークが必須である。 				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ブランド論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>【授業の主題】 マーケティングにおけるブランドの役割, ブランドに関する基礎および事例研究についての理解</p> <p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブランドマーケティングについて全体像を理解する。 2. ブランドマーケティングで使われる基本的用語を理解する。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス, ブランドとは 2. ブランドマーケティングの考え方 3. ブランドメンテナンスとブランド再構築 4. 顧客視点によるブランド価値評価 5. 新ブランドの開発 6. ブランド名の開発パターン 7. 企業ブランドとは 8. ブランド体系とカテゴリー 9. ブランドコミュニケーション 10. ブランド広告のフレーム 11. ブランド調査方法 12. ブランドの潜在価値 13. ブランドプロジェクトの全体設計 14. ブランドマーケティングの留意点 15. まとめ・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考文献】</p> <p>株式会社インプレス R&D POD 出版サービス, 2020, 「ブランディングの教科書」羽田康祐・K_bird 博報堂ブランドコンサルティング, 2012, 『図解でわかるブランドマーケティング』日本能率協会マネジメントセンター ブレインゲイト, 2002, 『図解でわかるブランディング』日本能率協会マネジメントセンター</p>				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で, 特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験 (80%) と中間レポート (20%) により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	マーケティング・コミュニケーション論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>【授業の主題】 マーケティング・コミュニケーション (広告活動を含む。) に関する基本的な知識、手法、さらには理論を理解する。</p> <p>【授業目標】 1. マーケティング・コミュニケーションについて全体像を理解する。 2. マーケティング・コミュニケーションで使われる基本的用語を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス, マーケティングとマーケティング・コミュニケーション 2. マーケティング・コミュニケーションの考え方 3. 広告/マーケティング・コミュニケーション諸活動の定義と機能 4. 広告/マーケティング・コミュニケーションのビジネス 5. コミュニケーション・メディア 6. 広告/マーケティング・コミュニケーション規制 7. BtoB 広告/マーケティング・コミュニケーション 8. グローバル広告/マーケティング・コミュニケーション 9. ソーシャル・マーケティングと広告/マーケティング・コミュニケーション 10. セールス・プロモーション 11. PR とパブリシティ戦略 12. クチコミ 13. ダイレクト・マーケティング 14. インストア・マーチャндаイジングとマーケティング・コミュニケーション 15. まとめ・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考文献】 石崎徹他, 2019, 『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告(第2版)』八千代出版</p>				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験 (80%) と中間レポート (20%) により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	アパレル経営論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1,2年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>【授業の主題】 経営学の視点からアパレル経営に関する基礎研究, 及び消費者行動に関する基礎的事例研究について理解する。</p> <p>【授業目標】 1. アパレル産業の経営に関する全体像が分かる。 2. アパレル産業の経営に関する基本的な取り組みを理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス アパレル経営とは 2. 会社の経営とは (1) アパレル企業の構造 3. 会社の経営とは (2) 日本のアパレル企業の成立 4. 企業論 (1) アパレル企業の歴史 5. 企業論 (2) アパレルビジネスの流れ 6. 企業形態論・企業統治論 (1) アパレル企画・開発形態 7. 企業形態論・企業統治論 (2) アパレル産業の流通形態 8. 経営戦略論 (1) アパレル産業の戦略とは 9. 経営戦略論 (2) アパレル産業の戦略方法 10. 経営管理論 アパレル産業の経営管理 11. 企業間関係論 アパレル産業のサプライチェーンマネジメント 12. 生産管理論 アパレル産業の生産管理とQCD 13. 組織デザイン アパレル産業の組織構造 14. 組織行動論 アパレル産業に人的資源管理 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 繊維産業構造改善事業協会「アパレル産業概論」				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	デザインマネジメント		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代におけるアート・デザインやマネジメントの環境やあり方を理解。 2. 次世代におけるアート・デザインのあり方について考えていくことを目標。 3. 様々な身体機能や体験の要素を取り入れたファッションアートの企画・制作・発信。 4. コミュニケーション方法や、マネジメント能力の向上。 5. 実践的な方法論によるアート・デザインマネジメントをめざす。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アート・デザイン 3. デザイナーとは？アーティストとは？ 4. マネジメントとは？ 5. マネジメント実践①身の回り 6. ①身の周り：資料収集・計画書の作成 7. 試案①身の回りについての計画案プレゼンテーション 8. 試案①実行・マネジメントについてのプレゼンテーション 9. マネジメント実践②環境 10. ②環境：資料収集・計画書の作成 11. ②環境について計画案のプレゼンテーション 12. ③総合マネジメント実践について 13. 記録・報告・作成 14. ③総合マネジメント実践についてプレゼンテーション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>生き延びるためのデザイン (ヴィクター・パパンネック, 壮光舎, 1974) ほか。 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。</p>				
準備学習の 具体的内容	授業の際に告知する。				
評価の方法 基 準	<p>課題 (70%) 授業態度 (30%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>出席率は教則に従う。 基本的な道具が必要な場合、各自で準備・持参。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>21 世紀、現代における美術環境や問題意識に対する理解を深める。 各自におけるアートコンセプトや、体験的な造形要素を理解する。 環境・メディアの観点からアート作品を制作・展示する。 視覚芸術における 2 次元および 3 次元的の形態によって自らのアートの制作及び、造形技法の発掘を促す。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 環境とアートについて 3. 環境とアートについて 発想 4. ラフスケッチ画・制作案の発案 5. 制作案の検討と素材集め 6. 環境とアートについて 作品の制作 7. 環境とアートについて 作品の仕上げ 8. 作品のプレゼンテーション 9. メディアとアートについて 10. メディアとアートについて 発想 11. ラフスケッチ画の完成・制作案の作成 12. 素材集め 13. メディアとアートについて 作品の制作 14. メディアとアートについて 作品の仕上げ 15. 作品の展示とまとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>美術からアートへ (三田村駿右著, 鳳山社, 1993) 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。</p>				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	<p>作品 (70%) プレゼンテーション (20%) 授業態度 (10%)</p>				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>身体を造形要素としてのアート作品を制作する。 身体をめぐる諸造形的言説を考察する。 様々な身体の機能や、感覚的要素についての思考力・感受性を高める。 アート作品の制作及びそれぞれの制作技法の発掘・発展させる。 身体を媒体にした作品制作とプレゼンテーション力・記録と編集および技術力の向上を目指す。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 20 世紀以降、現代美術における身体とアートについて 3. 身体を媒体にしたアートについて (パフォーマンス、イベント、ハプニングなど) 4. 作品の発想：ディスカッション 5. 作品の企画：スケッチ画・制作案作成 6. 作品の制作①素材あつめ 7. 作品の制作②表現力と技術の発掘 8. 作品の制作③試し制作 9. 作品の制作④本制作 10. 作品のプレゼンテーション (実演) 11. 作品のプレゼンテーション (記録) 12. 作品のプレゼンテーション (1 回目編集) 13. 作品のプレゼンテーション (2 回目編集) 14. 作品の発表 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>冷たいパフォーマンス (清水徹+山口勝弘, 朝日出版社, 1983) 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。</p>				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	<p>作品 (50%) プレゼンテーション (40%) 授業態度 (10%)</p>				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など, 基本的な描画道具が必要なため, 各自で準備し, 持参すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2年次・後期 (隔年)
授業の主題 標	<p>学生は次の内容を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なテキスタイルの素材, 製法を学びとる。 2. 近代から現代までのテキスタイルの動向を考察する。 3. 現在のテキスタイルデザインの立場からファッション及びインテリア市場を調査研究し, 動向を考察する。 				
授業の内容 進 め 方	<p>テキスタイルデザインの基礎となる理論と古代から現在に至るテキスタイルデザインの記録及び作品を基に歴史的発展と表現形態を時代別・民族別に追及し, デザインの意義を考察しながら以下の授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイルデザインとは? 2. テキスタイル素材 (麻・綿) 3. テキスタイル素材 (綿・ウール) 4. テキスタイル素材 (化学繊維) 5. テキスタイルにおける製造工程 (敷物) 6. テキスタイルにおける製造工程 (壁面装飾) 7. 歴史の発展・時代別の考察 (アジア) 8. 歴史の発展・時代別の考察 (日本) 9. 歴史の発展・紋様の考察 10. テキスタイルデザインの展開 11. テキスタイルデザイン研究 (織物) 12. テキスタイルデザイン研究 (染め) 13. テキスタイルデザイン研究 (編み) 14. テキスタイルデザイン研究 (独自表現) 15. テキスタイルデザイン研究 (加工) <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし, デザイン企画, 素材, デザイン作成に関しての内容を講義します。				
テ キ ス ト 教 材	「テキスタイルエンジニアリング [1] 原料から糸へ」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	課題において, 授業前の資料収集などを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定のレポート (80%), 授業への取り組み (20%)				
履 修 上 の 注 意	提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1年次・前期
授業の主題 目 標	<p>学生はデザインに関する情報収集及びデザイン計画の展開を学び、各自が自由にテーマを選択し、具体的にファッション及びインテリアとして独創的なデザインとして発展、展開する。 デザイン表現方法の拡大のため多様なスキルやテクニックを駆使し体験する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>各自テーマ設定を行い、ディレクションの企画を計画し、インテリアにおけるデザイン企画制作とウェアブルにおけるデザイン企画制作を行う。</p> <p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 企画課題説明 2. ディレクションのための調査・序章 3. ディレクションのための調査・分析 4. ディレクションのための調査・展開 5. ディレクション企画計画・序章 6. ディレクション企画計画・展開 7. ディレクション企画課題制作・序章 8. ディレクション企画課題制作・展開 9. ディレクション企画課題制作・編集 10. ディレクション企画課題講評会 11. デザイン企画調査 12. デザイン企画課題制作・序章 13. デザイン企画課題制作・分析 14. デザイン企画課題制作・展開 15. デザイン企画課題講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実戦的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>「インテリアトレンドビジョン」を参考にする。資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>期日指定の作品 (100%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>学生はものづくりのプロセスを学び、作品課題を遂行するための資料収集、試作などを繰り返し体験する。各自自由にテーマを選択し、デザイン及びアートの視点で作品を完成させることを目標とする。表現方法の拡大のため多様な方法を駆使し目的に沿って完成させる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>多様なデザイン表現のスキルやテクニックを拡大し各自で開発する。プランニングを通じて、サンプル制作及び企画制作を行う。</p> <p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 作品課題説明 2. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (ディスカッション) 3. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (資料収集) 4. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (資料調査) 5. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (展開) 6. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (アイデア出し) 7. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (試作) 8. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (再構成) 9. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (編集) 10. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題講評会 11. サーフェイスデザイン課題制作 (ディスカッション) 12. サーフェイスデザイン課題制作 (資料収集) 13. サーフェイスデザイン課題制作 (アイデア出し) 14. サーフェイスデザイン課題制作 (試作) 15. サーフェイスデザイン課題制作講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実戦的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>「DESIGNING DESIGN」を参考にする。資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>期日指定の作品 (100%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	工芸染織		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開講時期	1年次・後期
授業の主題 目 標	学生は手織機を使用しながら、基本的な織組織から布をつくることを目標とする。また絵画では表現出来ないテクスチャーと造形表現を修得し自己開発することを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	<p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 課題説明 2. テーマ課題制作 (アイデア出し) 3. テーマ課題制作 (織物構想) 4. テーマ課題制作 (織物設計) 5. テーマ課題制作 (糸染め準備) 6. テーマ課題制作 (糸染め説明) 7. テーマ課題制作 (糸染め) 8. テーマ課題制作 (経糸準備) 9. テーマ課題制作 (整経作業) 10. テーマ課題制作 (手織機への経糸セッティング) 11. テーマ課題制作 (織り表現説明) 12. テーマ課題制作 (織り作業) 13. テーマ課題制作 (織り作業・展開) 14. テーマ課題制作 (仕上げ) 15. テーマ課題制作講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「ウィーヴィング・ノート」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	染色実習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1年次・後期
授業の主題 目 標	<p>学生は布による造形作品の制作として染色の応用段階に入り多様なスキルやテクニックを体得する。シルクスクリーンプリント、CGプリント、絞り染、型染、植物染料実験等の実習を行う。</p> <p>また、応用作品では各自が自由にテーマを設定し創造的な作品制作を目標とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 課題説明 2. 型染による作品制作 (括り作業) 3. 型染による作品制作 (絞り染め) 4. 型染による作品制作 (型紙制作) 5. 型染による作品制作 (糊置き) 6. 型染による作品制作 (染色) 7. 型染による作品制作 (定着) 8. 布加工による作品制作 (オパール加工) 9. 布加工による作品制作 (染色) 10. 植物染料実験 11. 応用作品制作 (ディスカッション) 12. 応用作品制作 (アイデア出し) 13. 応用作品制作 (展開) 14. 応用作品制作 (試作) 15. 講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>企業における商品開発の実務経験を活かし、応用作品制作におけるものづくりのデザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>「絞り染め大全」, 「染色の基礎知識 合成染料の技法」を参考にします。資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>期日指定の作品 (100%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>身近にあるものごとを観察し、デザインの理解を深める。 知覚や運動からアプローチして、デザインに埋め込まれているものを考察する。また、児島地域の場所や風景を中心に、具体的な事例を考察する。 生活の中にあるもののデザインと理論との関わりについて知ると同時に冊子にまとめる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 身近にあるデザインされたものごとについて 2. アフォーダンスについて 1 概要 3. アフォーダンスについて 2 知覚について 4. アフォーダンスについて 3 デザインの視点から 5. アフォーダンスについて 4 風景という視点から 6. 環境と身体からデザインされている 1 毎日の行為からの考察 7. 環境と身体からデザインされている 2 道具的なものについての考察 8. 環境と身体からデザインされている 3 地面、林と森、建物を考察する。 9. 環境と身体からデザインされている 4 街を考察する。 10. 環境と身体からデザインされている 5 使われながらデザインされ続けることについて 11. 遠景と近景を観察する 12. 関係性をデザインすることについての考察 13. 発表, ディスカッション デザインについて 14. 発表, ディスカッション 児島の風景について 15. 「児島の風景」(冊子)制作 <p>定期試験は行わない。</p>				
実務経験を 活かす内容	デザインの実務経験を活かし、デザインに関わる理論と実践による教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『アフォーダンス入門』佐々木正人 (講談社学術文庫) 『レイアウトの法則』佐々木正人 (春秋社)				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	プレゼンテーション (60%) 課題 (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>現在の経済の仕組みや人との関係について考察し、身近なものを観察することを通して、デザインや表現することを試みる。</p> <p>依頼内容 (年度によって異なる) に基づいてデザインする。依頼者とのコミュニケーションを通して、個々の調査・研究・制作を行う。発表形式は自由 (学内外を問わない)。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 自分たちの生活環境について 2. 調査・研究1 周囲を観察する。 3. 調査・研究2 身近なものの収集 4. 調査・研究3 収集したものの分類 5. 調査・研究4 収集したものの編集 6. 中間発表 (調査・研究のプレゼンテーション) 7. 試作1 収集したものの落とし込み 8. 試作2 パターンの提示 9. 試作3 これまでのまとめ 10. 中間発表 (試作のプレゼンテーション) 11. 制作1 作品の考えについて 12. 制作2 広報に関するもの 13. 制作3 デザイン, 制作 14. 設営, 展示 15. 講評, 搬出 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	デザインの実務経験を活かし、デザイン企画に関わる実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『「その日暮らし」の人類学』小川さやか (光文社新書)</p> <p>『うしろめたさの人類学』松村圭一郎 (ミシマ社)</p>				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	<p>課題 (80%)</p> <p>プレゼンテーション (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	展示場所の視察など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	身の回りにあるものから企画する力と展覧会の実践を通して、創造とコミュニケーションの能力を鍛える。受講者全員の話し合いを通して、共通のテーマを設定する。個々はそのテーマへのアプローチを試みる。研究と試作を経て、制作を行う。学外での展示形式の発表を予定している。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション テーマに関する観察力と視点について 2. テーマに関する情報の収集 3. テーマに関する話し合いとテーマ設定 4. 展示に関する役割決めとスケジュールの作成 5. 展示場所についての情報収集と考察 6. 展示場所の現地視察 7. 研究・試作1 制作に関する収集 8. 研究・試作2 分類と編集 9. 研究・試作3 これまでのまとめ 10. 中間発表 プレゼンテーション 11. 広報の構想とデザイン 12. 制作1 考えの構築 13. 制作2 全体の構成 14. 搬入, 展示 15. 講評, 搬出 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	デザインや展示の実務経験を活かし、デザインと学外での展示に関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ちゃぶ台』 vol.1.1~3 (ミシマ社) 『世界をきちんとあじわうための本』 ホモ・サピエンス道具研究会 (ELVIS PRESS)				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	課題 (80%) プレゼンテーション (20%)				
履 修 上 の 注 意	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修 I	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1年次・前期 (集中)
授業の主題 目 標	<p>【主題と概要】この科目は、学外での学びを通じて学習意欲を高めることや就職活動に備え、早い時期から産業界との接点を持ち、実務的な体験を得ることが目的である。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ② 自分自身の将来について考えること ③ 自分自身の適性を確認できるようになること ④ 学びと働くことの意義を考えること ⑤ 働くことの楽しさや厳しさを体感すること ⑥ 就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと 				
授業の内容 進 め 方	<p>授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、夏休みを含めた前期終了までに以下の流れで授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生の就職活動におけるインターンシップの意義 就職活動、採用マッチング、インターンシップとは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. インターンシップの準備を始めよう 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 4-14. インターンシップの実施 企業、行政機関、まちづくり団体でインターンシップへ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる 15. レポート作成 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考書】「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン 梅崎 修 他 有斐閣 2,860 円</p> <p>【参考書】「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 小川慎一 他 有斐閣 2,530 円</p> <p>【参考書】ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版] 伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 3,080 円</p> <p>※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析、業界研究、企業研究を行うこと。 ・インターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。 				
評価の方法 基 準	受講態度 (50%)、インターンシップ日誌とレポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	<p>下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ②インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。 ⑥原則として2022年8月末日までにインターンシップを終えること。 				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1年次・後期(集中)
授業の主題 目 標	<p>【主題と概要】この科目は、日ごろ学んでいる知識や技術を用いて、多角的な視点から企業を観察する眼を養うことや進路選択の基盤とすることが目的である。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ② 自分自身の将来について考えること ③ 自分自身の適性を確認できるようになること ④ 学びと働くことの意義を考えること ⑤ 働くことの楽しさや厳しさを体感すること ⑥ 就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと 				
授業の内容 進 め 方	<p>授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、冬休みを含めた後期終了までに以下の流れで授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生の就職活動におけるインターンシップの意義 就職活動、採用マッチング、インターンシップとは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. インターンシップの準備を始めよう 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 4-14. インターンシップの実施 企業、行政機関、まちづくり団体でインターンシップへ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる 15. レポート作成 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考書】「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン 梅崎 修 他 有斐閣 2,860 円</p> <p>【参考書】「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 小川慎一 他 有斐閣 2,530 円</p> <p>【参考書】ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版] 伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 3,080 円</p> <p>※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析、業界研究、企業研究を行うこと。 ・インターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。 				
評価の方法 基 準	受講態度 (50%)、インターンシップ日誌とレポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	<p>下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ②インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。 ⑥原則として2023年1月末日までにインターンシップを終えること。 				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究		科目区分	専門科目	8 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	実 習	開 講 時 期	1, 2年次・通年
授業の主題 標	講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。この過程で、独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得させる。				
授業の内容 進め方	指導教員は学生と共に研究テーマを設定する。テーマに必要な知識を個人指導・講義・ゼミ・自学により学ばせながら研究または制作を計画遂行させる。その結果を学位授与機構へのレポートとしてまとめさせる。最終的な結果を特別研究論文または作品として提出する。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。				
準備学習の 具体的内容	学士論文作成のための論文検索調査をすること。 研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評価の方法 基 準	指導教員（服飾美術学科教員）が行う。				
履 修 上 の 注 意	各指導教員で受け入れ人員に制限がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	アパレル産業研修		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期 (集中)
授業の主題 目 標	大学で学んだ服飾美術の専門知識と技術をもって、企業におけるアパレル生産・流通等を実際に体験して、量産システムにおける知識と技術を学習すること及び職業人としての自覚を養うことを目的とする。				
授業の内容 進 め 方	<p>夏休みを含めた前期終了までに以下の流れで授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生の就職活動におけるインターンシップの意義 就職活動、採用マッチング、インターンシップとは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. インターンシップの準備を始めよう 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 4-14. インターンシップの実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的にはインターンシップ受け入れ企業の事業内容、インターンシップ受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 2) 1社当たり2～8名単位で行うものとする。 3) インターンシップ内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 4) アパレル企業における工場インターンシップ例を次に示す <ol style="list-style-type: none"> ① 全般概要 ② CAD・CGによる作業 ③ 量産方式による縫製実習 ④ 仕上げ ⑤ 商品検査 15. レポート作成 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考書】「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン 梅崎 修 他 有斐閣 2,860 円</p> <p>【参考書】「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 小川慎一 他 有斐閣 2,530 円</p> <p>【参考書】ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版] 伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 3,080 円</p> <p>※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析、業界研究、企業研究を行うこと。 ・インターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。 				
評価の方法 基 準	受講態度 (50%)、インターンシップ日誌とレポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	<p>下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ② インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③ 社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④ 採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤ 新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。 ⑥ 原則として2022年8月末日までにインターンシップを終えること。 				